













浪上義三郎速記

A black and white illustration showing a group of people in traditional Japanese attire. In the foreground, a person is seen from the back, wearing a kimono with a large, dark, swirling pattern. To their left, another person is seated, wearing a kimono with a light-colored background and small, dark, circular patterns. Further back, a person is wearing a kimono with a dark, swirling pattern. On the right, a person is wearing a checkered garment. They are gathered around a table or counter, and a large, dark, rectangular object, possibly a screen or a piece of furniture, is visible in the background.

入院 隨意  
胃腸病院  
院主 佐々木杏造  
電話 一六五九番

いたさば此の御宗を一人手を附けたるものぞ云はれて注進を聞きて飛んで來たは御宗の子息藤五郎殿宗格度此時に山嶽に行つて居た折で、知らせを聞いて驚き駕來つて見ると、右京大夫が父輝宗を小脇に抱込んで己れが陣へ連れ行ひく様子、藤五郎は最早是までと思ひつて持つて居た龍観を眼直し右京大夫を目掛けてズドンと一發狙ひは違はらず、脇腹から射貫いたが然し抱へて居つた故父の輝宗も共に一躍にて打殺しました、それより父の吊合職をいたした、本松の城を乗取つてしまひました、それゆゑ當時は伊達大膳太夫政宗の領地となつて居ります、晴雲二天の雨歸へぬよしなり

（京職明七郎）  
本村屋本  
京職みやけが待ちかねる  
市内には舟の居る一店居る御關係なし

人は此の二本松の城下に参り岩宮入  
藩に参詣をして此處に泊り翌日此の  
二本松を立出いたして、福島驛を指  
して参りました。

十月廿八日九星  
舊十月二日戊戌  
奉命八日良助大安

▲八日 御宗の御子息藤五郎殿宗格度此時に山嶽に行つて居た折で、知らせを聞いて驚き駕來つて見ると、右京大夫が父輝宗を小脇に抱込んで己れが陣へ連れ行ひく様子、藤五郎は最早是までと思ひつて持つて居た龍観を眼直し右京大夫を目掛けてズドンと一發狙ひは違はらず、脇腹から射貫いたが然し抱へて居つた故父の輝宗も共に一躍にて打殺しました、それより父の吊合職をいたした、本松の城を乗取つてしまひました、それゆゑ當時は伊達大膳太夫政宗の領地となつて居ります、晴雲二天の雨歸へぬよしなり

▲九日 御宗の御子息藤五郎殿宗格度此時に山嶽に行つて居た折で、知らせを聞いて驚き駕來つて見ると、右京大夫が父輝宗を小脇に抱込んで己れが陣へ連れ行ひく様子、藤五郎は最早是までと思ひつて持つて居た龍観を眼直し右京大夫を目掛けてズドンと一發狙ひは違はらず、脇腹から射貫いたが然し抱へて居つた故父の輝宗も共に一躍にて打殺しました、それより父の吊合職をいたした、本松の城を乗取つてしまひました、それゆゑ當時は伊達大膳太夫政宗の領地となつて居ります、晴雲二天の雨歸へぬよしなり

[illegible]

一八五二(階上) 黃金  
 二六三七(階下)

大衆の治る爲め其の志を合點し  
 電報 三三七 附下 伊代商店  
 十二月二十六日 省の特選  
**黄金館**

此の館は、大衆の治る爲め其の志を合點し、  
 電報 三三七 附下、伊代商店、  
 十二月二十六日 省の特選、  
 黄金館、  
 此の館は、大衆の治る爲め其の志を合點し、  
 電報 三三七 附下、伊代商店、  
 十二月二十六日 省の特選、  
 黄金館、

此の館は、大衆の治る爲め其の志を合點し、  
 電報 三三七 附下、伊代商店、  
 十二月二十六日 省の特選、  
 黄金館、  
 此の館は、大衆の治る爲め其の志を合點し、  
 電報 三三七 附下、伊代商店、  
 十二月二十六日 省の特選、  
 黄金館、

此の館は、大衆の治る爲め其の志を合點し、  
 電報 三三七 附下、伊代商店、  
 十二月二十六日 省の特選、  
 黄金館、  
 此の館は、大衆の治る爲め其の志を合點し、  
 電報 三三七 附下、伊代商店、  
 十二月二十六日 省の特選、  
 黄金館、

此の館は、大衆の治る爲め其の志を合點し、  
 電報 三三七 附下、伊代商店、  
 十二月二十六日 省の特選、  
 黄金館、  
 此の館は、大衆の治る爲め其の志を合點し、  
 電報 三三七 附下、伊代商店、  
 十二月二十六日 省の特選、  
 黄金館、

[illegible]

○三藥會主 浪花館  
 ○三藥會主 浪花館  
 ○三藥會主 浪花館

電話 三六〇  
 浪花館

電話 一九二番  
 御成座

電話 一九二番  
 御成座

電話 一九二番  
 御成座

○三藥會主 浪花館  
 ○三藥會主 浪花館  
 ○三藥會主 浪花館

電話 三六〇  
 浪花館

電話 一九二番  
 御成座

電話 一九二番  
 御成座

電話 一九二番  
 御成座

○三藥會主 浪花館  
 ○三藥會主 浪花館  
 ○三藥會主 浪花館

電話 三六〇  
 浪花館

電話 一九二番  
 御成座

電話 一九二番  
 御成座

電話 一九二番  
 御成座

當籤發表

[illegible]

蛇印了  
大邱府東城町  
電話四六三番  
水田藥院

十二指腸病  
目藥

五等 價等銀貨入一個 五十元  
常盤者多戰に付以下氏名を略す但心電  
儀者には全通知の上貨品を發送せしむ  
大坂市南久寶寺町二丁目  
栗本舖 山田安民藥屋

分 本

院 院

中 院

央 龍山診療所

婦 龍山診療所

人 龍山診療所

病 龍山診療所

院 龍山診療所

産婦人科

丸ンリビキン

<p><b>◎青竹</b></p> <p>船入 港山釜 <b>島末</b> 店木材</p>	<p>CONFECTIONARY WINE PROVISIONS DELICAT</p> <p>洋酒罐詰</p> <p>外間卸貨雜 内江屋近 目下二町本山釜 番三〇八路電</p>	<p>カーバイド</p> <p>ダイヤ印焼酎 フルコール</p> <p>福榮商會</p>	<p>味の素 朝鮮洋酒商</p> <p>特約店 詰罐酒洋</p> <p>店商やまづあ 町天排山釜</p>	<p>呈送行發報商刊月</p> <p>三町本山釜近 店商藤近</p> <p>日曆雜貨金物卸問屋</p>	<p>於銀牌 受領 各樹石萬改石長坂 種白通唐漢其製 賣販造</p> <p>會商農勸鮮朝</p> <p>且丁二天本山釜 番四五一城摩靜</p>
---	---	--	--	---	---

**●頑丈一點張**  
**壽命知らず龜田の萬年靴**  
 ▲二重底で其の上獨逸靴が打て有り丈夫なる事普通靴の比に非ず  
 一金四兩八割銀 一兩上靴  
 御注文の飾は白紙を踏みたる黒圓を附文にて御足の實形を書き又正確なる足袋  
 ▲營業品目録寸法用紙御報次第進呈  
 東京市芝區下町四丁目一番地  
**龜田靴店** 電話三三〇八  
 銀座芝草三三〇八

**油斷**

**大敵!**

かぜは萬病の基で決して油斷は出来ないのである、之を打捨て置けば往々チブスや肺炎に變症して後悔する事なる故にかぜは勿論熱病に罹られたる諸君は速かにハカリ印の**ペリン**を服用して熱を解き全快せらるべし。

を丸シニアへの口田阪大  
 稱成と丸シニアへの甲リ力ハ

川輕		鐵道	
列車時間表			
新發	前六、〇〇九、〇五後	新發	前六、〇〇九、〇五後
安州	著前七、五五士、〇五後	安州	著前七、五五士、〇五後
新發	前九、一〇後	新發	前九、一〇後
安州	著前九、一〇後	安州	著前九、一〇後
新發	前二、四五五、三〇	新發	前二、四五五、三〇
安州	著前二、四五五、三〇	安州	著前二、四五五、三〇
新發	前四、三七七、二八	新發	前四、三七七、二八
安州	著前四、三七七、二八	安州	著前四、三七七、二八

**ゼータスアチカタ**

高峰博士創製の本劑は從來北米及英國にて製造の品を販賣し來りたるも今回本邦に其工場を設け純國產品となれり。類似模造品を本劑と同一強度又は同一効力ありと稱し販賣するものあり注意を要す。

本劑は粉末及錠劑の二種あり。本會社發賣のタカチアスターゼは絶ての胃腸患者に實用せらる殊に本邦人に最も多量に消化不良症に起因する諸症に用ひて卓効を奏し従つて能く其營養を増進す。

東京室町 三共株式會社







原田は、温字が「日」の少が、無用！た  
りたるものなりと









女界

渡邊 默禪  
「お前は、この天地の間に、何をしようか?」  
「お前は、この天地の間に、何をしようか?」  
「お前は、この天地の間に、何をしようか?」



「お前は、この天地の間に、何をしようか?」  
「お前は、この天地の間に、何をしようか?」  
「お前は、この天地の間に、何をしようか?」

愛用者の聲  
美顔白粉  
お使用になつて「真十」  
2570, 130, 18.

「お前は、この天地の間に、何をしようか?」  
「お前は、この天地の間に、何をしようか?」  
「お前は、この天地の間に、何をしようか?」

「お前は、この天地の間に、何をしようか?」  
「お前は、この天地の間に、何をしようか?」  
「お前は、この天地の間に、何をしようか?」

商業登記公告  
京日案内  
京日案内  
京日案内

大阪商船出帆  
大阪商船出帆  
大阪商船出帆